

報告書

第9回 J L A シミュレーション審査会

目次

1. 概要
2. 審査会風景写真
3. 所感

第9回JLAシミュレーション審査会の概要

1. 事業名称 第9回JLAシミュレーション審査会
2. 事業目的
 - ① 溺者・傷病者に対する救助救護技術の向上と、関係法令に遵守し、専門分野の有識者指導の下、ライフセーバー間の技術共有を目的とします。
 - ② 医療機関まで『命をリレーする一員』として、ライフセーバーと公的救助機関との連携能力向上を目的とします。
 - ③ 水辺利用者の安全向上を目的とします。
 - ④ 日本各地の活動環境にあわせたシミュレーションを実施することで、実施者、審査員ともに様々な想定を学び成長できる機会とするとともに、各地のライフセーバーと公的救助機関との連携促進を目指します。
3. 日程場所

北関東・東北・北海道ブロック	2024/10/27 (日)	千葉県安房郡鋸南町保田海岸
南関東ブロック	2024/11/03 (日)	神奈川県横浜市海の公園
九州沖縄・四国ブロック	2024/11/17 (日)	鹿児島県始良市重富海岸
東海ブロック	2024/11/24 (日)	静岡県牧之原市さがらサンビーチ
近畿・中国・北信越ブロック	2024/11/30 (土)	兵庫県神戸市須磨海水浴場
4. 主催 公益財団法人 日本ライフセービング協会
5. 後援 海上保安庁、消防庁
千葉県、神奈川県、鹿児島県、静岡県、兵庫県
鋸南町、横浜市、始良市、牧之原市、神戸市
6. 助成 公益財団法人 日本財団
7. 協賛 味の素株式会社、ソニー生命保険株式会社
8. 協力 第三管区海上保安本部、第十管区海上保安本部、第五管区海上保安本部、千葉海上保安部、横浜海上保安本部、鹿児島海上保安部、清水海上保安部、御前崎海上保安署、神戸海上保安部、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部、横浜市消防局金沢消防署、始良市消防本部、始良警察署、静岡市消防局牧之原消防署、神戸市消防局須磨消防署、株式会社櫻井興業、株式会社ピースフル、千葉県ライフセービング協会、一般社団法人神奈川県ライフセービング協会、一般社団法人鹿児島県ライフセービング協会、特定非営利活動法人静岡県ライフセービング協会、一般社団法人兵庫県ライフセービング協会、特定非営利活動法人九十九里ライフセービングクラブ、東京消防庁ライフセービングクラブ、横浜海の公園ライフセービングクラブ、かごしま磯ライフセービングクラブ、牧之原ライフセービングクラブ、神戸ライフセービングクラブ
9. 審査項目
 - ① 継続監視要領
 - ② ライフセーバー間の連携要領
 - ③ 傷病者への観察要領
 - ④ 救急隊への引き継ぎ要領
 - ⑤ 観衆への対応要領
 - ⑥ 監視長の指揮要領
 - ⑦ 資器材の適正な取扱い要領
 - ⑧ 環境に配慮した対応要領
 - ⑨ 接遇要領
 - ⑩ 関係者の対応要領

10. 想定の概略

- ① 審査長の「想定はじめ」の合図から審査開始とします。
- ② 6名態勢で通常の監視業務中に有事が起きたこととします。
- ③ 他にも遊泳客は存在し、海のコンディションは良好です。
- ④ 遊泳禁止等の判断は行政・観光協会の3者と協議し決定しているため容易に変更できない状況です。
- ⑤ 実施者により仮想119通報があり、救急隊要請された場合、後に救急隊が到着します。
- ⑥ 総括の指示で係員が計測を行い、総括の「想定終わり」の合図によって審査終了とします。
- ⑦ 想定に別途変更などあった場合、当日事前説明時に変更点や付加事項などを実施者にお知らせします。

11. 実施時間 12分間（実施チーム数によって変更します）

12. 実施人数 6名 内訳(監視長1名 監視員5名)

13. 使用資器材（地域によって変更の可能性あり）

- ① レスキューボード、レスキューチューブ、双眼鏡、パイプ椅子、拡声器、AED（訓練用AED、実機用パット）、バックボード、傷病者記録票（バインダー含む）、ディスポグロブ、トランシーバー×4基（仮想消防含む）、はさみ、滅菌精製水の入ったボトル、お湯の入ったボトル、氷のう、毛布、アルコールなど（事前に手に取って確認することができます）
- ② その他、普段監視業務で使用している資器材の持ち込みを可能とします。

14. 表彰 審査結果により優秀チームを表彰します。

15. 参加費 1チーム 3,000円

16. 参加数 <ライフセーバー参加数>

- | | |
|-------------------------------|------------|
| ① 2024/10/27（日）千葉県安房郡鋸南町保田海岸 | 6チーム（36名） |
| ② 2024/11/03（日）神奈川県横浜市金沢区海の公園 | 7チーム（42名） |
| ③ 2024/11/17（日）鹿児島県始良市重富海岸 | 6チーム（36名） |
| ④ 2024/11/24（日）静岡県牧之原市相良サンビーチ | 10チーム（60名） |
| ⑤ 2024/11/30（土）兵庫県神戸市須磨海水浴場 | 4チーム（24名） |

合計 33チーム 198名

<審査員、エキストラスタッフ、関係諸機関参加数>

41名+34名+67名+32名+35名 合計 209名

<見学・観覧者>

30名+20名+80名+20名+20名 合計 170名

総合計 577名

第9回 JLAシミュレーション審査会の概要

想定例 2024年度 想定例 今後告知される実施通知により内容が変更されます。

時間	項目
0分	ライフセーバー（以下LS）の監視本部テントに実施チーム待機（固定監視）。 監視長の「準備よし」の発声後、統括の『想定はじめ』の合図で計測開始。
想定開始後 0秒後スタート	監視本部前の波打ち際から、傷病者A（年齢実年齢、字生、川島博(かわしまひろし)若しくは弘子(ひろこ)）が、遊泳中に右下腿（右ふくらはぎ）に急激な痛みを感じ、監視本部まで歩いてきた（自力歩行）。時間経過とともに右下腿の痛みが増してきたと訴える。 また、上記の受傷した際に驚き右に転倒した。岩場に右前腕をつき、同位置に5cm程度の裂創、出血している。 【想定のねらい】右下腿には触手が残っていないことから、どのクラゲ（刺胞動物）に刺されたのかが不明。①適切な声掛けや説明対応ができるか。②声がけを含め傷病者Aが安心できる対応であったか。③受傷部位をよく観察し、適切な手当ができたか（お湯を使って温める。何が何でも海水をかける行為はNG）。④感染防止対策は十分であったか。⑤右前腕の裂創に対して止血を言いつけ対応は適切であったか。
想定開始後 45秒後スタート	監視本部前の波打ち際から通報者が本部に駆け寄ってくる。監視本部から40m程度離れた波打ち際に溺れた人（傷病者B）が引き上げられたようだと言報を受ける。通報者は、海の家（エイジア）の従業員（年齢実年齢、塚田陽介(つかだようすけ)若しくは冴子(さえこ)）。 傷病者は呼吸をしていないように感じたので危険と判断し、監視本部に来たが、どのような状況で溺れ、救出されたか前後の状況は全く知らない。傷病者B（年齢実年齢、派遣社員、関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)は波打ち際の人だかりの中で側臥位。ライフセーバーの初見はレベル300。周囲にいた傷病者の友人も泣き叫ぶなど活動の弊害目づ常識的範囲で負荷想定がある（観衆による活動障害）。誰のせいだと喧嘩を始める者もいる。3回ほど制圧するような指導すると、概ね言うことを聞く。傷病者の友人のうち1名が、波打ち際20m程度の位置でうつ伏せ浮きしている傷病者を確認し、砂浜まで引き上げた。ライフセーバーからの問いかけで回答する。 傷病者の状態：LS接触時、呼吸、脈、意識なしの状態からCPAと判断、左記状態以外は見たまま、外傷無し。（傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する可能性あり。） 訓練用AEDを装着した場合は、解析するもショックの必要なし。実機用パットのため粘着力強。ライフセーバーのCPR実施は訓練用ダミーを用意。バイタルの観察は生体を使用。呼吸なし、橈骨・総頸動脈触れない。大量の海水を飲んでいて想定される。 関係者の条件：LS接触時、傷病者の横に友人がいる。慌てており、LS接触後30秒間は傷病者に「大丈夫？どうしたの？」と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、救急車呼んだのであれば荷物を取りに300m離れた海の家まで行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到着1分後まで戻ってこなくなる。海の家に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)）、年齢（実年齢）、電話番号（携帯をいじって090-7000-5762）、住所（品川区とだけ回答）。 その他、友人からの情報は、一緒に飲んでいたが、傷病者はいつの間にかはぐれてしまい直前の状況は分からない。気付いた時には海にうつ伏せで浮いている状態で、呼びかけに反応がなく顔色が悪い状態だった。20分前の出来事。友人は救急車に同乗可能。 救急隊の条件：119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せば出場する。 【想定のねらい】溺水により当初は意識レベル300。観察や関係者から聴取した情報を理解し適切な応急手当ができるか。①傷病者の観察、②CPAの判断、③救急要請、④CPRの実施、⑤AEDの扱いが適切かつ迅速であったか。電極パットの貼り付け位置が適切であったか。⑥CPR中断の判断、⑦CPR若しくはEARを継続し、必要であればライフセーバー間の交代や連携はスムーズであったか。⑧継続的な呼びかけや容態観察によりバイタルの変化などを記録し救急隊に引き継げるか。⑨感染防止対策は十分であったか（ファーストだけでなく、セカンド、サードの感染対策）。⑩継続監視〔重要〕。⑪溺水に伴う脈の観察でどの動脈を選択したか。⑫リトルアンを使用するため形だけではない人工呼吸や胸骨圧迫が適切に実施されているか。⑬意識・呼吸・脈の確認を形式的でなくしっかりと観察できているか。⑭注意事項；JLAでは、「新型コロナウイルス感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン2023（2023年6月21日）」に示したように、2023年度はマウス・トゥ・マスクによる人工呼吸は傷病者と救助者の顔が至近になるため推奨していませんが、溺水の場合は低酸素血症が心停止の原因であることから、第8回シミュレーション審査会では、アフターコロナを見据えて感染対策（例えばHEPAフィルター付きポケットマスクの使用）をしたうえでの人工呼吸の実施は加点対象とします。なお、BVMは使用についてはJLA活動ガイドラインで推奨していないことにご注意ください。
想定開始 ●分●秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）。
想定開始 ●分●秒後	救急隊長指示で、搬送開始。それまでは救急隊は観察継続。
想定開始 12分後	車内収容完了。監視業務継続。 統括の『想定終了』の合図で終了。

第9回JLAシミュレーション審査会の概要

2024年10月27日(日) 千葉県 鋸南町 保田海岸会場 タイムテーブル

時間	項目
08:00	係員集合 会場設営開始
09:00	会場設営完了 エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明開始
09:30	エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明完了
09:35	実施チーム受付開始
09:50	全実施チーム参加者本部テント前集合 開会式に伴い集合
09:55	<p>主催者挨拶 日本ライフセービング協会 救助救命本部本部長 石川 仁憲</p> <p>紹介 審査員 安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部 鋸南分署 副分署長 鈴木 栄介 (すずき えいすけ) 様</p> <p>紹介 審査員 千葉海上保安部 警備救難課 専門官 村瀬 剛徹 (むらせ たかあき) 様</p> <p>紹介 千葉海上保安部 警備救難課 医療支援係 小林 衛 (こばやし まもる) 様</p> <p>■救急隊員エキストラ 館山消防署 鋸南分署 救急隊</p> <p>救急隊長 小宮 和仁 (こみや かずひと) 様</p> <p>隊員(副主査) 笹子 俊之 (ささご としゆき) 様</p> <p>隊員(副主査) 能条 翔平 (のうじょう しょうへい) 様</p> <p>紹介 審査員 九十九里ライフセービングクラブ 富浦 半田 隼士</p> <p>紹介 審査員 大洗サーフライフセービングクラブ 小森 申大</p> <p>紹介 審査員 九十九里ライフセービング 鋸南 加藤 恵里奈</p> <p>紹介 審査員 九十九里ライフセービングクラブ 天津小湊 菅井 美希</p> <p>紹介 審査員 鹿嶋ライフガードチーム 下津 中島 悠介</p> <p>紹介 審査員 鹿嶋ライフガードチーム 平井 小橋 桃子</p> <p>紹介 審査員 教育本部 浅田 勇樹</p> <p>紹介 審査員 JLAアカデミー本部 弓削 匠</p> <p>紹介 審査員 ライフセービングスポーツ本部 江川 陽介</p> <p>紹介 審査員 JLAMD 北村 伸哉</p> <p>紹介 審査員 JLAスーパーバイザー 足立 正俊</p> <p>事務連絡及び補足説明</p>
10:30	第1回目実施 九十九里ライフセービングクラブ 富浦
10:50	第2回目実施 大洗サーフライフセービングクラブ
11:10	第3回目実施 九十九里ライフセービングクラブ 鋸南
11:30	第4回目実施 九十九里ライフセービングクラブ 天津小湊
11:50	第5回目実施 鹿嶋ライフガードチーム 下津
12:10	第6回目実施 鹿嶋ライフガードチーム 平井
12:40	■集合写真 昼食
13:10	<p>■各公的救助機関、JLAメディカルダイレクター、地域代表審査員、審査長の講評 表彰</p> <p>審査会総括 実行委員長(救助救命副本部長) 菊地 太</p>
14:10	<p>■実施チーム 撤収は審査員以外協力</p> <p>本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 事務連絡 全係員解散 日没時間 16時51分</p>

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

第9回JLAシミュレーション審査会の概要

2024年11月3日(日) 神奈川県 金沢区 横浜海の公園会場 タイムテーブル

時間	項目
08:00	係員集合 会場設営開始
09:00	会場設営完了 エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明開始
09:30	エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明完了
09:35	実施チーム受付開始
09:50	全実施チーム参加者本部テント前集合 開会式に伴い集合
09:55	<p>主催者挨拶 日本ライフセービング協会 理事長 入谷 拓哉 (いりたに たくや)</p> <p>ご挨拶 第三管区海上保安本部 警備救難部 課長補佐 中澤 克元 (なかざわ かつもと) 様</p> <p>紹介 随行 第三管区海上保安本部 警備救難部 救難課計画係 上武 英人 (うえたけ ひでと) 様</p> <p>ご挨拶 横浜市消防局 金沢消防署 警防課警防第一係長 安西 隆雄 (あんざい たかお) 様</p> <p>紹介 審査員 横浜市消防局 金沢消防署 警防課 救急担当係長 青木 英和 (あおき ひでかず) 様</p> <p>紹介 審査員 横浜海上保安部 警備救難課 救難係長 金成 洋斗 (かなり ひろと) 様</p> <p>紹介 随行 横浜海上保安部 警備救難課 救難係 坂元 嘉朗 (さかもと よしあき) 様</p> <p>■救急隊員エキストラ支援</p> <p>本多 辰也 様 東京消防庁ライフセービング部会</p> <p>後関 裕輔 様 東京消防庁ライフセービング部会</p> <p>寺尾 匡人 様 東京消防庁ライフセービング部会</p> <p>岡田 大輝 様 東京消防庁ライフセービング部会</p> <p>末次 尚之 様 パトロールレスキュー委員</p> <p>紹介 審査員 辻堂ライフセービングクラブ 原田 剛</p> <p>紹介 審査員 葉山ライフセービング 加藤 智美</p> <p>紹介 審査員 波崎サーフライフセービングクラブ 奈良 行祐</p> <p>紹介 審査員 常陸サーフライフセービングクラブ 緑川 航太</p> <p>紹介 審査員 西浜サーフライフセービングクラブ 坂本 真徳</p> <p>紹介 審査員 返子サーフライフセービングクラブ 菊地 快</p> <p>紹介 審査員 大竹サーフライフセービングクラブ 三浦 洸樹</p> <p>紹介 審査員 横浜海の公園ライフセービング 座間 吉成</p> <p>紹介 審査員 ライフセービング教育本部 地域教育推進委員会委員 石井 優愛</p> <p>紹介 審査員 JLAスポーツ本部 スポーツ育成委員会委員 植木 将人</p> <p>紹介 審査員 JLAアカデミー本部 サーフライフセービング委員会 宮田 沙依</p> <p>紹介 審査員 JLAメディカルダイレクター 朽方 規喜</p> <p>紹介 審査員 JLAパトロールレスキュー委員会・医師 宮原 光興</p> <p>紹介 審査員 JLAスーパーバイザー 中見 隆男</p> <p>事務連絡及び補足説明</p>
10:30	第1回目実施 辻堂ライフセービングクラブ
10:50	第2回目実施 葉山ライフセービング
11:10	第3回目実施 波崎サーフライフセービングクラブ
11:30	第4回目実施 常陸サーフライフセービングクラブ
11:50	第5回目実施 西浜サーフライフセービングクラブ
	昼食
12:40	第6回目実施 返子サーフライフセービングクラブ
13:00	第7回目実施 大竹サーフライフセービングクラブ
13:20	第8回目実施 横浜海の公園ライフセービング
14:00	<p>■集合写真 ■各公的救助機関、JLAメディカルダイレクター、地域代表審査員、審査長の講評 表彰</p> <p>審査会総括 実行委員長(救助救命副本部長) 菊地 太</p>
15:00	<p>■実施チーム 撤収は審査員以外協力</p> <p>本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 事務連絡 全係員解散 日没時間 16時44分</p>

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

第9回JLAシミュレーション審査会の概要

2024年11月17日(日) 鹿児島県 始良市重富海水浴場 会場 タイムテーブル

時間	項目
08:00	係員集合 会場設営開始
08:50	会場設営完了 エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明開始
09:20	エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明完了
09:25	実施チーム受付開始
09:40	全実施チーム参加者本部テント前集合 開会式に伴い集合
09:45	<p>主催者挨拶 日本ライフセービング協会 理事長 入谷拓哉 日本ライフセービング協会 救助救命本部本部長 石川 仁憲</p> <p>紹介 審査員 始良市消防本部 司令補 道地 秀弥(どうち しゅうや)様 紹介 審査員 鹿児島海上保安部 警備救難課長 半沢 優(はんざわ ゆう)様 紹介 審査員 始良警察署 地域課長 満留 毅(みつどめ たけし)様</p> <p>■救急隊員エキストラ 始良市消防本部 救急隊 救急隊長 始良市消防本部 士長 東 俊一郎(ひがし しゅんいちろう)様 隊員 始良市消防本部 士長 竹井 涼(たけいりょう)様 隊員 始良市消防本部 消防士 登尾 純光(のぼりお あつき)様</p> <p>紹介 審査員 大分市ライフセービングクラブ 尾田 智史(おだ ともふみ) 紹介 審査員 かごしま磯ライフセービングクラブ 山下 丞(やました すずむ) 紹介 審査員 九州医療科学大学ライフセービングチーム 西園 与之(にしその ともゆき) 紹介 審査員 サウスミヤザキライフセービングクラブ 藤田 和人(ふじた かずと) 紹介 審査員 ライフセービング教育本部 地域教育推進委員会 國木 孝治(くにき たかはる) 紹介 審査員 JLAアカデミー本部 BLS委員会委員 濱田 博孝(はまだ ひろたか) 紹介 審査員 JLAメディカルダイレクター 北村 伸哉(きたむら のぶや) 紹介 審査員 JLASーパーバイザー 豊田 勝義(とよだ かつよし)</p> <p>事務連絡及び補足説明</p>
10:10	第1回目実施 サウスミヤザキライフセービングクラブ
10:30	第2回目実施 九州医療科学大学ライフセービングチーム
10:50	第3回目実施 大分市ライフセービングクラブ 田ノ浦
11:10	第4回目実施 新宮ライフセービングクラブ
11:30	第5回目実施 かごしま磯LSC 鹿児島
11:50	第6回目実施 屋久島ライフセービングクラブ
12:10	■集合写真
12:15	<p>■各公的救助機関、JLAメディカルダイレクター、地域代表審査員、審査長の講評 表彰</p> <p>審査会総括 実行委員長(救助救命副本部長) 菊地 太</p>
13:00	<p>係員、審査員、エキストラは昼食</p> <p>■実施チーム 撤収は審査員以外協力</p> <p>撤収開始 車内積載開始 その後 事務連絡 全係員解散 日没時間 17時17分</p>

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

第9回JLAシミュレーション審査会の概要

2024年11月24日(日) 静岡県 牧之原市 さがらサンビーチ会場 タイムテーブル

時間	項目
08:00	係員集合 会場設営開始
09:00	会場設営完了 エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明開始
09:30	エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明完了
09:35	実施チーム受付開始
09:50	全実施チーム参加者本部テント前集合 開会式に伴い集合
09:55	<p>主催者挨拶 日本ライフセービング協会 理事長 入谷拓哉 日本ライフセービング協会 救助救命本部本部長 石川 仁憲</p> <p>ご挨拶 牧之原市 副市長</p> <p>紹介 審査員 海上保安庁第三管区海上保安部 御前崎海上保安署 大石 勝彦 (おおいし かつひこ) 様 土屋 豪 (つちや たけし) 様</p> <p>紹介 審査員 海上保安庁第三管区海上保安部 御前崎海上保安署 原田 謙平 (はらだ ゆうへい) 様</p> <p>紹介 審査員 牧之原市役所 産業経済部 商工観光課 主事 芳村 武郎 (よしむら たけしろう) 様</p> <p>紹介 随行 牧之原市役所 産業経済部 商工観光課 主事 大石 凌 (おおいし りょう) 様</p> <p>■救急隊員エキストラ 静岡市消防局 牧之原消防署 救急隊 消防隊長 救急救命士 伊藤 剛史 (いとう つよし) 様 消防士 鈴木 誠 (すずき まこと) 様 消防士 鈴木 利直 (すずき としなお) 様</p> <p>紹介 審査員 下田ライフセービングクラブ白浜 古屋 深夏 紹介 審査員 御浜ライフセービングクラブ 波多野 真帆 紹介 審査員 牧之原ライフセービングクラブB 鳥倉 暹乃 紹介 審査員 牧之原ライフセービングクラブA 富山 直樹 紹介 審査員 熱川ライフセービングクラブ 山中 志音 紹介 審査員 南伊豆ライフセービングクラブ 斎藤 大樹 紹介 審査員 土肥ライフセービングクラブ 小林 蘭 紹介 審査員 西伊豆ライフセービングクラブ 富田 惟斗 紹介 審査員 用宗ライフセービングクラブ 松岡 翼希 紹介 審査員 ライフセービング教育本部 地域教育推進委員会 石原 早織 紹介 審査員 JLAアカデミー本部 サーフライフセービング委員長 関口 義和 紹介 審査員 スポーツ本部 競技安全委員会 委員 天野 駿介 紹介 審査員 JLAメディカルダイレクター 鍛冶 有登</p> <p>事務連絡及び補足説明</p>
10:30	第1回目実施 下田ライフセービングクラブ白浜
10:50	第2回目実施 御浜ライフセービングクラブB
11:10	第3回目実施 御浜ライフセービングクラブA
11:30	第4回目実施 牧之原ライフセービングクラブB
11:50	第5回目実施 牧之原ライフセービングクラブA
	昼食
12:40	第6回目実施 熱川ライフセービングクラブ
13:00	第7回目実施 南伊豆ライフセービングクラブ
13:20	第8回目実施 土肥ライフセービングクラブ
13:40	第9回目実施 西伊豆ライフセービングクラブ
14:00	第10回目実施 用宗ライフセービングクラブ
14:20	<p>■集合写真 ■各公的救助機関、JLAメディカルダイレクター、地域代表審査員、審査長の講評 表彰 審査会総括 実行委員長(救助救命副本部長)菊地 太</p>
15:20	<p>■実施チーム 撤収は審査員以外協力 本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 事務連絡 全係員解散 日没時間 16時36分</p>

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

第9回JLAシミュレーション審査会の概要

2024年11月30日（土）兵庫県神戸市須磨区 須磨海水浴場 タイムテーブル

時間	項目
08:00	係員集合 会場設営開始
09:00	会場設営完了 エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明開始
09:30	エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明完了
09:35	実施チーム受付開始
09:50	全実施チーム参加者本部テント前集合 開会式に伴い集合
09:55	<p>主催者挨拶 日本ライフセービング協会 理事長 入谷 拓哉 日本ライフセービング協会 救助救命本部本部長 石川 仁憲</p> <p>紹介 神戸市港湾局海岸防災課 海岸係長 小林 基宏（こばやし もとひろ）様 紹介 神戸市須磨消防署 消防司令 西馬 武彦（にしうま たけひこ）様 審査員 神戸市須磨消防署 救急係 消防司令補 松井 一洋（まつい かずひろ）様 審査員 第五管区海上保安本部 警備救難部 救難課 救難業務係長 淵脇 旨叔（ふちわき よしひろ）様</p> <p>■救急隊員エキストラ 神戸市須磨消防署 消防防災課 救急係 消防司令補 増本 浩章（ますもと ひろあき）様 消防士長 杉山 英臣（すぎやま ひでおみ）様 消防士長 山崎 直人（やまさき なおと）様</p> <p>紹介 審査員 大阪体育大学ライフセービングクラブ 佃 遼介 紹介 審査員 淡輪ライフセービングクラブ 山口 怜 紹介 審査員 アカデミー本部 サーフライフセービング委員会 吹田 光弘 紹介 審査員 JLA教育本部 学校教育推進委員会 小崎 遼介 紹介 審査員 JLA MD 吉澤 大</p> <p>事務連絡及び補足説明</p>
10:30	第1回目実施 大阪体育大学ライフセービングクラブ
10:50	第2回目実施 淡輪ライフセービングクラブ
11:10	第3回目実施 神戸ライフセービングクラブ A
11:30	第4回目実施 神戸ライフセービングクラブ B
11:50	<p>■集合写真</p> <p>各公的救助機関、JLAメディカルダイレクター、地域代表審査員、審査長の講評 表彰 審査会総括 実行委員長（救助救命副本部長）菊地 太</p>
12:50	<p>■実施チーム 撤収は審査員以外協力</p> <p>本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 事務連絡 全係員解散</p> <p style="text-align: right;">日没時間 16:48</p>

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

第9回 J L A シミュレーション審査会の概要 会場図

千葉県 鋸南町 保田海岸会場 会場図



神奈川県 横浜市 横浜海の公園 会場図



第9回JLAシミュレーション審査会の概要 会場図

鹿児島県 始良市重富海水浴場 会場 会場図



静岡県 牧之原市 さがらサンビーチ会場 会場図





刺胞海生物に刺された傷病者に対して、JLAの推奨する応急処置は、原則、火傷しない42℃程度の温水などにより30分程度温めることとされている。
今回のJLAの準備した使用器材の中には、50度を超える温水と、常温水を豊富に準備していたことから、ライフセーバーがどのように対応するのかが評価の一項目となっていた。
温度が下がらない状況を維持できたかが、傷病者の主訴を軽減させることにつながる。

JLA活動ガイドラインの感染対策に示す通り、呼吸を吹き込んだ後にポケットマスクを外して要救助者の顔に近づくことは危険行為になります。
また、ガイドラインでは個人防護具（Personal Protective Equipment, PPE）のガウンについて、装備することでCPRなどの着手遅延は推奨しないと示されている。この事についても、参加チームによってはCPR着手までに最大2分の差があることから、改善が必要な事項になります。





現場と本部間の無線交信がスムーズに行えないチームが多く散見された。

現場の状況がわからないと、本部で119番通報するための情報が得られず、結果119番通報が刻々と遅延する。通報開始時間の早いチームと遅いチームの差が2分以上あった。また、胸骨圧迫開始時間にあっても早いチームと遅いチームの差も2分以上あった。ここは少しの連携能力向上で救命率が大きく変わる課題ととらえる。



2024年10月27日（日）
千葉県 安房郡 鋸南町 保田海岸会場





刺胞海生物に刺された傷病者に対して、JLAの推奨する応急処置は、原則、火傷しない42℃程度の温水などにより30分程度温めることとされている。

今回のJLAの準備した使用器材の中には、50度を超える温水と、常温水を豊富に準備していたことから、ライフセーバーがどのように対応するのかが評価の項目となっていた。

温度が下がらない状況を維持できたかが、傷病者の主訴を軽減させることにつながる。



東京消防庁ライフセービングクラブの方々も救急隊エキストラとしてご協力くださいました。エキストラとして参加いただいた方々の真剣な姿勢は、ライフセーバーの皆さんと一緒に技能向上を目指し、水辺利用者の安全安心につなげたいとの思いからと伺っています。深く感謝申し上げます。



9年目の開催となると、

- 観衆への協力要請
- 救急隊への情報共有の時間短縮
- 観衆の制動を含めた掌握
- 現場と監視長間の情報共有の醸成
- 感染対策防護衣の着装技術

全てにおいて、各参加チームの技術の向上を感じました。

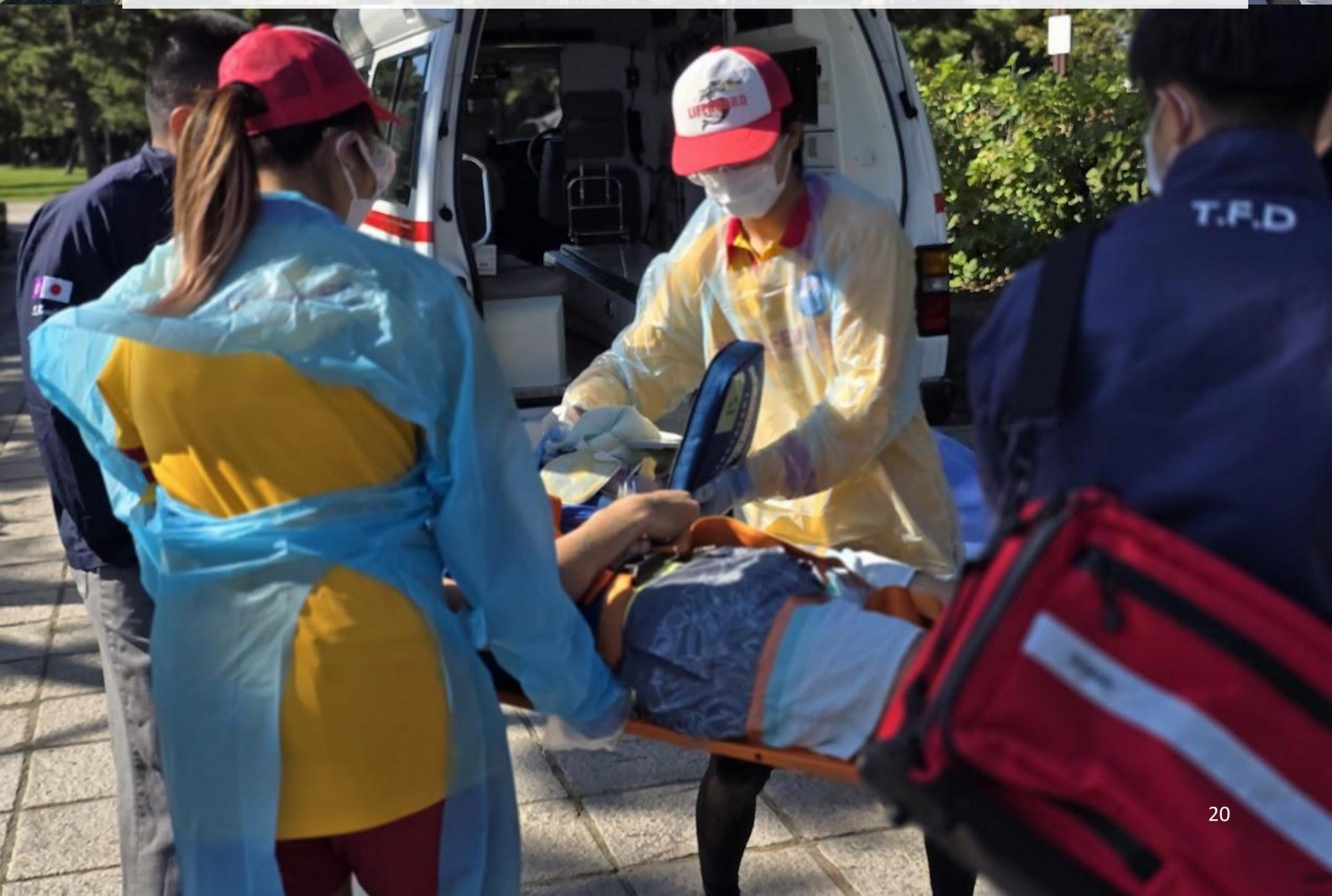
実災害に近い状態での環境を作れているのは、ひとえにエキストラの方々作り上げて下さっているからと心より感謝申し上げます。寒い環境下で何度も演じて下さる事に深く感謝しています。当事業にとってエキストラの演技力は、最重要事項と考えますが、経験豊富なベテランから若手まで多くの方が携わって下さったことにより、エキストラにも学び多い時間となりました。





横浜海の公園での開催は今年で3回目となりましたが、参加チームの連携は年々向上していると感じます。

横浜市消防局職員の方々には救急車実機借用などのご協力を賜りました。ライフセーバーにとっては、普段触ることの無い器材対応への鍛錬となり、水辺の安全に繋がる貴重な機会となりました。





救急車内収容時は、メインストレッチャーの転倒事故の危険性が高まるため、ライフセーバーは、サイドについてメインストレッチャーを支えるなどの救急隊支援は事故防止の観点から有益と考えます。各地域の公的救助機関と連携していくにあたり、監視業務前に支援していいのか確認事項として次第に上げることも必要です。

刺胞海生物に刺された傷病者に対して、JLAの推奨する応急処置は、原則、火傷しない42℃程度の温水などにより30分程度温めることとされている。

今回のJLAの準備した使用器材の中には、50度を超える温水と、常温水を豊富に準備していたことから、ライフセーバーがどのように対応するのかが評価の一項目となっていた。

温度が下がらない状況を維持できたかが、傷病者の主訴を軽減させることにつながる。





JLA活動ガイドラインの感染対策に示す通り、呼吸を吹き込んだ後にポケットマスクを外して要救助者の顔に近づくことは危険行為になります。
また、ガイドラインでは個人防護具（Personal Protective Equipment, PPE）のガウンについて、装備することでCPRなどの着手遅延は推奨しないと示されている。この事についても、参加チームによってはCPR着手までに最大2分の差があることから、改善が必要な事項になります。





鹿児島県では初めての開催となりました。
九州地区開催では昨年引き続き、遠方から参加される姿勢に運営側も襟を正さねばと考えさせられました。
開催にあたり多くの行政機関様のご支援ご協力があり、学ぶことも多く貴重な時間となりました。







刺胞海生物に刺された傷病者に対して、JLAの推奨する応急処置は、原則、火傷しない42℃程度の温水などにより30分程度温めることとされている。
今回のJLAの準備した使用器材の中には、50度を超える温水と、常温水を豊富に準備していたことから、ライフセーバーがどのように対応するのかが評価の一項目となっていた。

温度が下がらない状況を維持できたかが、傷病者の主訴を軽減させることにつながる。

一方、傷病者に対しての接遇に関して、安心する声掛けなど地域の高いレベルを感じました。
三角巾の対応含め、技術の習熟度の高さを感じました。





救急隊のエキストラの方々は11月下旬の気温でも何度も何度も実施することにより汗をかきながらご協力してくださりました。深く感謝申し上げます。
車内収容時に、メインストレッチャーの転倒防止のため、メインストレッチャーのサイドに立つライフセーバーも少なくなかったことは、毎年継続的に実施してきたことで定着しつつあると考えます。





今回の想定では、胸骨圧迫や呼気吹込みを含めた手技について、しっかりと評価をする目的で12分間の想定時間となった。コロナ禍が3年ほど続いたことや、感染対策に伴い、CPRの十分なトレーニングができない期間が長くありました。それらの事から、今回はポケットマスクによる呼気吹込みや、実機用AEDパットを活用し、胸骨圧迫をダミーにより実施するなど、実践に近い状況を作って想定を組み立てました。

昨年度の審査会では、ポケットマスクを活用した吹き込みに漏気があって、十分な換気が出来ていないチームが散見されましたが、今年度は、どのチームも習熟した技術をもって漏気なく実施していたと感じます。

また、ペパフィルターを使用するチームもいるなど、普段からの意識の高さも感じ、静岡県下ライフセーバーの取り組む姿勢に感銘しました。





この開催地では、普段から公的救助機関との高度な連携訓練を実施していることがうかがえる内容であった。

情報の申し送りだけでなく、無駄な人員配置も少ないと感じました。

また救急隊との連携により、担架搬送もスムーズなチームが少なくなかったと感じました。







バックバルブマスクを活用した呼吸吹込みや、ディスポグローブの活用、ポケットマスクが使用後に砂がつきやすい状況など、課題もあり、今後の鍛錬への気付きに繋がる時間となりました。



救急隊が到着後にライフセーバーとして何ができるか？

写真から見えてくる課題がある。

救急隊は容態観察や、関係者からの情報収集、様々な資器材の搬送、救急車までの搬入路までの確保、など現状到着後、多くの事項を判断し行動しなければなりません。

ライフセーバーは、救急隊到着後、そこにいるより、もっと何かができたのではないのでしょうか？ 1人でできることを複数人で取り掛かっている様子が少なくありませんでした。

発見できた課題は、来年以降の課題として得るものがありました。



現場と本部間の無線交信がスムーズに行えないチームが多く散見された。

現場の状況がわからないと、本部で119番通報するための情報が得られず、結果119番通報が刻々と遅延する。

衆人観衆の捌きに対して、無線伝達事項など優先順位を試される状況となった。

更には、救急車内収容時は、メインストレッチャーの転倒事故の危険性が高まるため、ライフセーバーがサイドについて、メインストレッチャーを支えるなどの救急隊支援は事故防止の観点から有益と考えます。各地域の公的救助機関と連携していくにあたり、監視業務前に支援していいのか確認事項として次第に上げることも必要である。

救急隊の一人は多くの荷物を一人で搬送している。ライフセーバーはもっと搬送支援できたのではないのでしょうか。課題として次回に活かせるものを得ました。



【 所感 】

先ずは第9回目の審査会に参加して下さった多くの皆様に感謝いたします。

今年度は、全国5カ所で開催し、それぞれの地域で大きな成果を上げることができました。

それには、多くの企業様からのご支援があるからこそ継続できていると深く感謝しております。

このご支援は、我々ライフセーバーのためでなく、多くの水辺利用者にとって安心安全な環境作りに審査会を通して役立たせて頂いています。

また、審査会当日に向け各地域の各行政様と十分なお打ち合わせができたのは、ひとえに、各地域で多くの時間を費やして、動いてくださったホストクラブの方々がおられたからと感謝しています。

地域ライフセービングクラブが長い時間をかけて積み上げてきた地域行政様との信頼関係が十分構築されている地域や、今回の審査会を通して地域ライフセービングクラブと関係行政様と顔の見える関係となれた地域もありました。

いずれにせよ、水辺利用者にとっては、安心安全に繋がる良き効果であったと確信しています。

一方、係員やエキストラに関して、年々協力して下さるメンバーが増えていることや、係員各セクション、エキストラの演技指導などとても大切なポジションの後輩への伝達作業なども垣間見え、次世代へ引継ぎも同時進行で進め、今後の展望に明るさを感じています。

審査会の趣旨や目的は、本報告書の3ページ目に記載ありますが、傷病者のいる現場からの情報が監視長に明瞭簡潔に伝達され、適切な観察・優先順位の選択が、早期119番通報や、早期CPR開始などの時間短縮に大きく影響したのではないのでしょうか。

この事は、有事対応時だけでなく、監視業務を含むすべての行動時にも必要不可欠な能力です。

今後とも皆さんと共に、高い誇りを持って活動できるよう、邁進していきますので、どうかお力添えの程宜しくお願い致します。

最後になりますが、地域クラブから選抜された審査員の【検討推奨事項】は、各浜で長い歴史ある監視業務を先人から受け継ぎ、今日まで多くの経験に基づいて構築された貴重な物ととらえています。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項に示した『エキストラ所感』『審査員所感』は審査員などから取りまとめた【検討推奨事項】となりますので、『メディカルダイレクター所感』と同様、熟読して頂き、今後のパトロールに活かして頂くことが、審査会の根幹であり、運営側から切望するところであります。

今後も、皆さんと一緒に審査会の運営自体も検討し、大きな効果を得られるようご協力のほど宜しくお願い致します。

公益財団法人 日本ライフセービング協会
救助救命本部

第9回JLAシミュレーション審査会 実行委員長 菊地太